

伊那市地域情報化審議会 会議録

開催日	平成28年10月4日(火)					
開催時間	開 会	午後 3時00分	～	閉 会	午後 4時30分	
	委員氏名		出欠	市側 出席者		
委員の 出欠	1	萩原 素之	出			
	2	柳川 広美	出	事務局		
	3	飯島 信子	出	総務部長	原 武志	
	4	平澤 きよ美	出	情報統計課長	高嶋 利幸	
	5	高嶋 厚	出	情報推進係長	松崎 茂	
	6	向山 賢悟	出	情報推進係	守谷 泰志	
	7	水野 哲男	出	オブザーバー	出欠	
	8	北原 秀志	出	NPO いなじん	中村 元康	出
	9	赤羽 芳一	出			
協議事項	(1) 計画(案)の追加資料について (2) 計画(案)の修正について					
配布資料	資料No.1 伊那市地域情報化計画 体系図比較 資料No.2 伊那市地域情報化計画 具体的な取組事項比較 資料No.3 第3次伊那市地域情報化計画(案) 取組事項ロードマップ 資料No.4 第3次伊那市地域情報化計画(案) 資料No.5 第3次伊那市地域情報化計画(案) 修正個所対照表 資料No.6 審議会の進め方について					

【 概要 】

1 開 会

2 あいさつ (萩原会長)

3 協議事項 議事進行 萩原会長

(1) 計画(案)の追加資料について

<事務局からの説明>

委 員：資料No.1とNo.2の番号の振り方が対応していない。今後、作成する場合は

統一して欲しい。

委員：資料No.1で市民参加（協働）によるまちづくりの①が、公募手続きの推進となっているが、手続きではなく意見公募を推進するということが良いと思う。

事務局：この後、計画案の修正について協議をいただき、修正対応していく。

委員：資料No.2の2ページ目の一番上の2-6情報のバリアフリー化は、長野県の聴覚障害者情報センターで実施されている電話リレーサービスがある。他にメールやFAXで消防署や警察署に緊急通報ができるものがあるが、ここに入れてみてはどうか。

事務局：反映できるものは反映をしていきたい。

会長：個別の意見は、また出てくるかもしれないので先に進んでよろしいか。

委員：異議なし。

（2）計画（案）の修正について

＜事務局より説明＞

委員：30、31ページの教育現場でのICTの利活用について、タブレットの台数ではなく、現場と相談したうえで実際に必要な機器整備をお願いしたい。

キーボードの指導においてパソコンの整備についてもお願いしたい。

この2点を再検討いただきたい。

事務局：現場の先生の生の声なので、教育委員会と相談をして分かりやすい目標に変更したいと思う。

委員：タブレット端末の653台という目標数字の根拠は何か。

事務局：各学校で現在2人で1台のタブレットを使っているが、1人1台使えるように配置していくための必要台数である。

学校教育課に確認をしたところ、パソコン教室のパソコンを更新する代わりにタブレットを導入した経過があり、現在のところ方針に変更はないとのことである。今後学習指導要領を改正するという国の動きがあるが、正式な通知がまだ来ていないので、通知内容を見たうえで、学習指導要領に沿った対策をしていくとのことである。

委員：タブレットはパソコンの代替にはならない。パソコンがあつてのモバイルであり、全体がそういう方向である。本当にタブレットの台数を増やしていいのか、是非、現場を調査していただき、学校教育課と相談をしていただきたい。

事務局：今までに要望のあったものは全て学校教育課へ現場の声として、既に伝えてある。教育委員会の現在の方向性は説明したとおりが、審議会としてまとめていくうえでは、担当課との調整が必要であり、この審議会の中から具体的な要望があったことは伝える。

- 委員：タブレットがあるなら、ブルートゥースキーボードを用意する方法でキーボードの対応ができる。
- 委員：アウトプットはタブレットで出すということか。
- 委員：そうです。文章も打てる。
- 委員：学校では対応したプリンターがないので印刷ができない。
- 委員：それなら、プリンターも買う必要がある。
- 事務局：キーボードの必要性や費用をあまりかけずに対応できる方法も御提案いただいたので、学校教育課へ伝えていく。計画の中には何らかの形で反映をするよう検討する。
- 委員：是非、そのようにお願いしたい。この審議会では、必ずしも具体的なことというよりも、将来の方向性を示すことが一番重要なことである。
- 委員：考え方としては賛成。パソコンを学校教育の中で取り入れる場合に、一番の問題は教える人である。教える人の力量についてはどうか。
- 委員：職場の中の全員が使えるわけではないが、ある程度堪能な方がいて教え合っている。細かい設定などは、業者や作業できる教員が対応するが、授業で使うには問題はない。
- 委員：学校では何年生からタブレットを使って授業をしているか。
- 委員：1年生から使っている。状況に応じてだが、観察に使ったりする。1人1台は使えないが、1年生なら2人や3人で使う。カメラで撮ったり、動画で自己紹介をしたりする。キーボードを打つなら4年生からで、調べものとかをする。
- 委員：子供たちも、使える子、使えない子がいると思うが、どう対応しているか。
- 委員：使える教員が手伝ったりする。植物観察するということで持たせたが、2～3時間目の頃には自分たちで使いこなしている。使い方を見ながら、どう使うかを教えている。
- 委員：就職したときには、タブレットなどはすぐ使えるが、キーボードが使えるようになっていた方が良いと思う。
- 委員：キーボードは必要になると思う。小学校の低学年だったら、タブレットに指で書いて、それを記録にして残している。プロジェクターで映すこともやっている。一番初めに見たのが、東京都の目黒区で小中学校にタブレットを配備した時で、低学年でそこまでできるのかと感じた。
- 委員：小学3年生も朝や夕方の時間にキーボード練習をしている。こういうことはさせてあげたいと思う。
- 委員：30、31ページの取組のところに学力を向上させるとか、授業の質や先生の業務効率を上げるとか、そういうことが主な目的であれば、その文言を入れてもいい。
- 委員：前回、大学生のキーボードを打つ能力が低下しているという指摘があった。私からも、学校教育の中に取り入れていかなければいけないという話をした。この審議会としての方向が非常に大事なことなので、計画に入れるべ

きだと思う。

委員：学力向上のためとか、将来のためとかいう文言も入ってきてもいいと思う。

委員：学校教育課で情報委員会の委員を集めて、小中学校でどんな情報機器が必要か意見を交わして、明確にしていければ良いと思う。

委員：きちんと役立って教育効果が上がるようなお金の使い方をしなければと思う。

事務局：学校現場と学校教育課との間での意見の摺り合わせが充分ではないという御意見ですので、現場の声をしっかり吸い上げられるように、学校教育課へ働きかけを行いたい。計画へは、将来への方向性として反映をしていきたい。

委員：ICTに不慣れな人への技術的支援のところで、現状が26人で目標が28人とは少ない感じがするが、確かな目論見がある数字なのか。CD配布による情報提供というものは具体的にはどのようなものか。技術的という言葉はなくても単に支援が適切ではないかということを含めて説明いただきたい。

事務局：社会福祉課が把握している障害者の人数と今までの実績から、出された数字かと考える。CD配布による情報提供は、内容を承知していないので、確認して委員の皆様へお伝えしたい。

委員：実際にCDの配布とカセットの配布はある。社会福祉協議会で作っている。

委員：視覚障害者の方にはそれで伝えるということか。

委員：以前、伊那市はボタンを押せば音声が出る機器を配布していたことがあった。

委員：32・33ページの2-12の防災関連情報の提供のところで、国で情報提供している雨量の蓄積情報とか三峰川、天竜川の河川情報とあるが、市のホームページの防災のところから見られるようにするのはどうか。

委員：あまり公にしない方がいいと思う。以前、水害発生直前までいった時に、天竜川まで見に行っている人がいた。落ちたらどうするのか。ここは水路が危険です程度にしておいた方が安全だと思う。

委員：河川を見に行かなくても、情報を見られるのは良いことではないか。

委員：情報を見てしまうと、どうしても川へ行ってみたいくなる人がいる。それが危険だと思う。

委員：その指摘は分からなくもないが、そういう時には行ってはいけないという教育が、まずは必要だと思う。情報が悪いわけではない。

事務局：ホームページの1か所で情報が見られるようにという意見もありましたので、ホームページの内容充実等も今後検討して、関連した情報を一括で得られるようにすることも担当課へ伝え、充実をさせていきたい。

委員：市内気象情報をホームページで提供とあるが、この情報源自体が全て市で観測されているわけではないと思うが。

事務局：国や県の情報を市が収集して、災害の発生への心配がある段階で危機管理課から安心安全メールなどで情報発信をしている。

委員：26・27ページで一番下の1-5地方税電子申告システムの普及は、eLTaxのことと思う。インターネットによる申告手続きのPRとか、広報チラシの配布ということがあるが、eLTaxを普及するための簡単なマニュアルも加えていただきたい。

委員：伊那有線放送さんは毎年eLTaxの講習会をやっている。ケーブルテレビさんもeLTaxの講習会を、同様にやっていただければと思う。

事務局：PRだけでなくマニュアル作成も併せてということで、これからの普及という方針でありますので、そういうものを用意していけるよう税務課と調整する。

委員：講習会を流すということか。

委員：その方がよいと思う。

委員：小規模企業や零細企業では、経理担当者にはeLTaxはハードルが高い気がする。

委員：行政情報番組のい〜なチャンネルで取り上げるのがよいと思う。

事務局：操作方法について、ケーブルテレビさんの番組の中で取り扱ってもらいたいということか。

委員：その方がよいと思う。

事務局：ケーブルテレビさんは色々なものを扱っておられると思うが、テーマが普及ということになっているので、税務課に相談をして、どういう方法で普及していくのかということ具体的に工夫をするように伝える。

委員：体系図が11ページにあるが、この順番は重要度という理解でよいか。パブリックコメントは、どういう情報を示して、意見収集する予定か。

事務局：丸数字の方針の順番については、前回計画の番号順を基本に、新たに追加する方針はジャンルの近いところへ追加した順番である。

パブリックコメントは、資料No.4計画(案)冊子38ページ分を提示して、意見をいただくことを考えている。

丸数字の連動性について、11ページの目標、方針が1の①とある。同様に26ページの方針のところへ①という表示を付けて、それぞれが連動するように修正をする。

委員：その取り組みを、何のためにやるのかということが書いていない部分がある。教育の情報化について、機器の整備とあるが何のためかが欲しい。

事務局：目的部分については、現状と課題全体をもう一度精査して、加えられるところは目的を加えて修正をする。

委員：15ページの情報があるまちづくりで、現状と課題はあるが、教育のところはセキュリティの事しか書かれていない。同様に17ページの移住希望者への情報提供という項目は、方針は出ているが、現状と課題の中に記述が無いので、課題と方針がマッチングしているのか見直しをしてい

ただきたい。

事務局：全体的に課題と方針が連携するように見直しをする。

委員：丁寧に下から積み上げて計画案ができていますので、これでいくと、すばらしいものができると感心している。いつも審議会はどのようにやるのか。

事務局：こちらの審議会については、現在のスタイルで行ってきている。別の審議会については、それぞれ進め方が違い、市役所内部で各課の取り組みを積み上げて案を作る場合や、外部に委託して案を作る場合など、色々なケースが考えられる。

委員：34、35ページの下から2番目3-6の時間や場所にとらわれない柔軟な働き方で、市内企業が社員の状況によっては在宅勤務を選べるような支援を追加してはどうか。

事務局：現在伊那市が行っているのは、通信環境を整える中で、働く場所を提供しようといったことを、商工振興課が進めている。政策としては、企業を支援してくということは必要かと思うが、今後政策として出来るかどうか担当課に打診し、計画の中に入れられるかについては、担当課に委ねたい。

委員：情報化計画の大きなテーマがICTの利活用で暮らしやすく働きやすいまちと書かれているが、働きやすいまちの内容のボリュームをアップした方が良いと思う。

委員：御指摘のとおりだと思う。

委員：17ページのIoT推進のための検討ですが、IoTの推進とは、イコール世界標準になる。世界標準化を目指せるのか。

事務局：現在は、市として新産業技術推進協議会を立ち上げて、実証実験を踏まえて研究、検討の段階である。

委員：IoTの推進ということで、この辺の表現の検討が必要だと思う。

委員：働きやすいといった場合には、例えば農業者の方だとスマート農業もあるので、そういう情報提供をできれば、生産活動がよりやり易くなると思う。

事務局：暮らしやすいと働きやすいは、対のようでもある。テレワーク以外にも例えばインバウンドに対応することで働きやすくなるとか、いくつかあるかと思うが、基本理念の表現について検討させていただきたい。

会長：いかがでしょうか。これ以上、特段の御発言がなければ、次の段取りとしては、パブリックコメント募集を10月11日に開始することが予定されている。ほぼ意見は出たようなので、修正を反映していただいて、パブリックコメントに進むということになります。修正内容確認の手続きをどうするのか。

事務局：パブリックコメントには、計画案をそのまま出させていただきたい。パブリックコメントでお寄せいただいた意見は、次回の審議会に提出させていただき、今日の意見の修正については、改めて皆様に確認をしていただくことで、よろしいでしょうか。

委員：この審議会は下から丁寧に積み上げていっており、丁寧すぎるくらいだ。

会 長：大筋は認めていただいていると思うので、それで進めていただければと思う。それでは、この原案のままでパブリックコメントに公開することに御了承を得られたということになりました。他に御発言はありますでしょうか。

委 員：色々な情報の提供や施策の推進については、い～なチャンネルを請け負わさせていただいているので、全面的に協力をさせていただきたい。

30、31ページのところで、2-2地上デジタル放送の行政チャンネルの活用とあるが、あえて地上デジタルと書かなくてもいいところと、その右側 ICT の空きチャンネルを借り受けての部分で、伊那 CATV という表現の方がいいことと、新しくチャンネルを借りるような印象を受けてしまうので、継続との表現をしていただきたい。提案のあった eLTax の講習会も含めて積極的に協力をさせていただきたい。

(3) その他

特になし

4 その他

5 閉会